

『20世紀の神話』の真実-----	金 学哲	1
天池人物(6)——李 東哲-----		3
コリアンの世界——ザパー新大陸に向かう「ズム—ニ2000」-----		4
慧いと漏い(文芸鑑賞)——家系図-----	野田 宇太郎	6
沖繩紀行-----	金 炳哲	8
インターネット通販を成功させる法則(1)-----		12
北朝鮮難民の子供の眼に映った生と死-----		13
暮らしに役立つ——生活情報-----		19
中・韓2カ国後同時学習案内-----	日韓語学研究所	20
天池俱樂部通権——第57回定例会報告-----		裏表紙内
天池広告-----		裏表紙外

『天池人文』のミレニアム

『天池人文』が誕生して3年あまりになる。在日中国朝鮮族の集まりである天池俱樂部を中心に運営しているこの雑誌は、雑誌という名に恥ずかしいくらい未だに極めて未熟なものである。それでも在日中国朝鮮族の皆様、朝鮮族に関心と愛情を示している日本社会の皆様に支えられながら、前に向かって進んでいるし、幸運にも20世紀から21世紀へと世紀を跨り、新しい千年紀を迎えようとする。

小さくても、理想があり、気概があり、特色のある雑誌に創り上げたいものである。民族からスタートして民族を乗り越え、国家を意識しながら国家を超越する、グローバルな地球村の自由なメディアになりたいものである。21世紀末にも『天池人文』は発行されるだろうか。3000年のミレニアムにも『天池人文』は人々の記憶に残るだろうか。我々の努力次第である。

願わくば、神よこの弱き者に永遠たる命を与え給えよ！

『20世紀神話の』の真実

金 学哲

(作家・抗日独立運動家)

『労働新聞』にシリーズ「誰が建設を破壊するか」を連載したことが偉い方の逆鱗に触り、私は記者として入社して僅か6ヶ月で(1947年5月)労働新聞社から追い出された。これが全体主義の「地上樂園」でいつも不協和音を出しながら生きなければならない、私の苦い運命の始まりであった。

1950年秋、私は耐えられず鴨緑江から北へ渡った。しかし、大きく夢を抱いて尋ねて行ったその「地上樂園」もやはり同じであった。人々は口に響(くつわ)嵌められた状態で生きていた。そこで私は52年間もその厭らしい響を口の中から吐き出そうと死闘している。

1957年の大粛清により55万2千8百77名の知性人たちがいわゆる「反党一反社会主義右派分子」という罪名を被り、強制収容所へ連れて行かれた時、私も栄光にもその列に加わった。強制労働に散々苦勞しながら「赤い赤い太陽Mao」に対する深い信仰心が揺れ始めた。「大躍進」の狂乱により人間が無数(約3千万人と推定)に餓死しているにも拘わらず、朝から晩まで「偉大なるMao 万万歳」を叫ぶ時、私はついに個人崇拜の迷妄から目を覚ました。そこで一人独裁の害悪を赤裸々に暴露しよう決心した。心には決めても公開銃殺される光景が目の前にありありと浮かんできて動揺を繰り返した。しかし結局は筆を執った。

『20世紀の神話』(1350枚)を脱稿したのは1965年3月、しかしその翌年に思いかけず「文化大革命」が起こり、私は夜中に侵入してきた暴徒(紅衛兵と称する無頼漢)たちによって原稿と一緒に拉致された。その結果、組織的に動員された傍聴者1300名が一糸不乱に「打倒反革命」を叫ぶ中で10年の懲役を言い渡された。裁判所で教えてくれなかったために、私の家族たちは被告人の口が汚い雑巾で塞がれている珍風景もみることができなかった。10年後満期出獄はしたものの「反革命前科者」であったために私は何の仕事もできなかった。

「赤い赤い太陽」が沈んだ翌年、全国の「右派分子」たちがほとんどが復権されたわけであるが(強制労働22年ぶりに)、私は「反革命前科者」ということで除外された。紆余曲折を経てついに名誉が回復されたのは1980年12月、65歳の暮れであった。私に10年懲役をもたらした『20世紀の神話』の原稿は「時限爆弾」という理由から押収され続け、再び7年の歳月が過ぎてからやっと「不許発表」という条件簿をつけて返還された。

それから発表の時期を熟するのを忍耐づよく待ち続けたわけであるが、空しくも言論統制の手綱は陰性的な方法で段々ときつくなるばかりであった。12という歳月を待ち続けてからそれ以上は我慢できず1996年12月、私は大きく決断してソウルでそれを発表したのである。脱稿してから31年9ヶ月ぶりのことであった。この「大逆無道」な行為のために私はもう一回試練を経験しなければならなくなった。「法廷に立たせるなら立たせてみろ。今回は私の口を塞ぐことはできないだろう。すべてを暴露してしまうから。」それでもこの事件がきっかけとなって私は今も苦しみから逃れずにいる。

『20世紀の神話』の祟りは次の千年まで私にくっついて私を苦しめるものであろうか。

[メッセージ]

20世紀の朝鮮民族の運命は艱難を極めるものでした。21世紀には自力と団結力で希望の世紀を開くべきです。(金 炳哲)

[メッセージ]

2000年の就職活動を向かう皆さんへ

2000年の“天池就職経験交流会”を担当させていただくことになった徐光哲です。皆さんはもう会社の情報収集とか、SPI能力試験の勉強などやっていますか。会社の情報は<http://www.recruit.co.jp/RN/>のホームページから簡単に入手できます。できるならば早い時期に会社の研究を行い、会社から募集要綱等を送ってもらったほうが後に役立ちますよ。そして、SPI能力試験の本も2, 3本ぐらい買って早目から練習をしたほうが良いですよ。2000年2月27日に、天池クラブでは日本で就職している多数の先輩から現在の留学生の就職状況とか、日本の外資系会社の状況、就職活動で失敗した話、就職経験等を紹介してもらい、今年の就職活動で成功するためにはどうやるべきかなどについて経験交流を行うことになりました。成功した経験よりも失敗した経験がもっと重要で、皆さんに役立つものになると思いますので、皆さんの積極的なご参加を歓迎します。

[メッセージ]

韓国の朝鮮族留学生たちのHPをお知らせします。

<http://www.koreanchinese.com> このホームページには韓国・中国の朝鮮族の情報が入っているし、朝鮮族の他のHPにもリンクできます。(呂 伶)

天地人誌 (6)

李東哲 日中韓語学研究所代表、延辺大学日本代表、言語学者

○1956年12月11日（旧暦）吉林省延吉県に生まれる。田舎の中学校（高校を含む）卒業後、約3年半くらい「貧農・下層中農の再教育」を受ける。大学入学試験制度回復後、大学を受験、運良く一発で吉林大学日本語学科に合格。試験成績は算数が最低で28点、当時はこの成績でもいい大学に入れた時代—「万歳！」。作家を志し、放送局やテレビ局に農村の報道記事を書いて送ったり、詩を書いたりしたが、大学に入ったおかげで作家の夢が実らずじまい。

○1982年2月、延辺大学に就職先が決まったが、教師をする意思がなく、学校に残って抵抗したが、暖簾に腕押しで相手にされず、渋々党の「分配」に従う。「延辺大学脱出」を試み、武漢大学の「研究生」を受験したが、英語が48点で見事に落ちこちる。それ以来おとなしく1989年3月まで延辺大学で教鞭を執る。毎月1、2回のペースで学術論文を発表してはその原稿料でよく「BC」（「氷川」という延辺の有名なビール）を飲む。雨漏りする13㎡の学校寮で3人家族で暮らしたが、楽しい日々を送る。その間、日本語教研室主任、学部副学部長を歴任。生まれつき幹部をやるタイプではなかったが、「革命的需要」だったので断れず。おかげで「光荣」に中国共産党にも入党—ラッキー。

○1989年3月31日家族ともども日本に上陸、2度目に日本の土を踏む。留学ではなかったのが初めは苦労はせず。半年くらいは毎日ぶらぶらと街をほつつき歩き、パチンコも時々覗く。1992年4月 横浜国立大学大学院教育研究科国語教育修士課程入学、修了後国立国語研究所の外国人研究員として1年間在籍。1996年4月 立正大学大学院文学研究科国文学博士課程入学、一生懸命稼いでは授業料に当て込む。力尽き、希望が見えなくなったのでとうとう1998年9月降参する。1997年3月から1999年8月まで在日韓国系新聞社に記者として勤める。溯って1990年4月から1995年3月まで横浜フェリス女学院大学で朝鮮語を教える。1998年12月から今日現在、一等地の新橋で収入にならない語学教室をオープン、世界初の「中・韓2カ国語を同時に学ぶ講座」に挑戦している。

○家族は妻と一男一女の四人暮らし。「一姫二太郎」と逆で「一太郎二姫」だが、満足。

教訓—自分の能力を過信するな！下手の横好きはやめなさい！

理想—貧乏でも自由自在に自分の好きなことをすること

特技—ビールなら誰にも負けないよ！

趣味—何でも来い、やってやるぞ！

事務所電話 電話：03-3592-9005 語学・留学・進学のことなら何でも相談OK

↑ サーバー大陸の開拓者—「ズームニ2000」

無限なサーバー空間で韓国を代表して世界と宇宙を舞台に活躍する21世紀の主演「ズームニ2000」が登場する。「ズームニ2000」とは韓国政府の新千年委員会が企画し、テイコム、朝鮮日報社が主催するイベントであり、西暦2000を迎えてコンピューターと英語の実力が優れた1980年生まれの満20歳の若者2000名を選抜して、テイコムが運営するデジタル「千里眼」に2000個のハングル・英文のホームページを造らせ、国境のないサーバー空間で彼らが知恵と創造力と夢を思い存分広がせるようにする。

「ズームニ」とはニューミレニアムの若者を意味する英語と韓国語の合成語であり、2000年には「ズームニ」たちが多彩なイベントを行うことになる。

「ニレニアム・フェスティバル」は、「ズームニ」たちが2000年1月～12月までの間、毎月1ヶ国を選んで、相手国のインターネット通信会社を通してその国の若者たちとインターネットで交流し、インターネット上の音楽会、アニメーション、ゲーム大会などの文化イベントを行う。

「ニレニアム・エンバシー」は、サーバー上の外交大使として、ニレニアム・フェスティバル開催国と「サーバー外交官」を交換し、お互いに外交活動を行う。

「夢の宮殿」は、インターネットを通して、世界の若者たちが新千年の夢と理想を載せたホームページコンテストを行ない、最優秀作に選ばれたホームページの上でインターネットUN総会が開かれる。

他にも、「ズームニ」たちは、白頭山から漢羅山までの朝鮮半島の主な山を同時登山する「サーバー統一登山」、20世紀の10代事件の現場を探検する「ニレニアム・タイムマシーン」、世界のミレニアム・ユースリーダーたちと一緒に朝鮮民族の移動経路を追跡する「我が民族の源流を求めて」、世界の戦場を修復し、そこに平和の花園を造るイベントなどを行ない、インターネット上で、キムチ、高麗人参などの民族固有の文化と伝統を外国に伝える「我が文化広報」、不法サイトを監視する「インターネット警察」、コンピューター啓蒙を行う「コンピューター文盲退治ボランティア」などの役割が「ズームニ」たちに与えられる。

このイベントを企画した韓国政府の新千年委員会の委員長であり、著名な文芸批評家である李 御寧氏は「『ズームニ2000』プロジェクトは『人間インフラ』を造るために種を蒔く作業です。イギリスは『ミレニアム・ドーム』を造っていますが、韓国では2000名の若者に投資してサーバー空間の『夢の宮殿』を造っています」と誇らしげに語った。

朝鮮民族の20世紀は苦難と試練に満ちた世紀であったが、この「ズームニ2000」たちが希望の世紀を開く先導者になるであろう。

李 御寧氏は「ズームニ」たちに次のような希望に満ちた詩を贈っている。

↑ ザバー大陸に向かうズームニたちに

メーフラワー号に乗って新大陸へ出航した人は
百二名

だが 彼らが広大な土地に播いた種は
とうもろこしとなり、タバコとなり、綿花となり、
旧世界にはなかった石油王、鉄鋼王、金融王となり、
今やハリウッドとシリコンバレーを創り出した。

だが 今ここに

ビットの海に乗り出し、↑
ザバーの新大陸へ出航した人は
韓国のズームニ2000名

渤海、高句麗の旧領土より広く、無限な新大陸に
彼らが播いた夢の種は

平和になり、新環境、新人間、新知識、新歴史となり
旧世界にはなかった愛の王、希望の王、幸福の王となり、
共に生きる地球村を創り出す。

ズームニ2000

千年の瞳

その昔のアサダルの日の出のように

新しい歴史に矢印を立てる。

*アサダルは朝鮮の古称であり、「朝日の国」という意味である。

[暮らしに役立つ生活情報]

留学生の民間住宅入居に補助金

留学生の日本の民間住宅への入居の際、敷金、礼金など大きな負担になりますし、外国人にアパートを貸したがる家主も多いです。そこで以上の問題を少しでも解消するために、内外学生センターなどで留学生に家を貸した民間の家主に10数万円の補助金を出す制度があります。そこで不動産、家主とよく相談すると、この制度を利用して礼金を少なく出すか、1ヶ月ぐらゐの家賃を少なく出すこともできます。詳細は各大学の留学生担当部門に問い合わせてください。

(金 光林)

家系図

野田 宇太郎

ぼろぼろの千二百余年からの
この家系図の階段をのぼりつめると
はるか朝鮮奥地の茫々たる原野が見え
大陸から押し寄せる唐の大軍
東の海辺にひしめく新羅
つひに七百年の歴史を無残に砕かれた
高句麗の、うらぶれた敗亡の民に混って
とある日の相模の海に漂ひ着いた
わたくしの祖先若光の憂ひの顔が
今もまなかひに浮び出します。

この錆びた一振りの高麗太刀
この虫づいた大般若経の古い写本
そして伝来の仏像や獅子面が
亡命といふ錆いかなしい音 (おん) となって
はてしない海原にのこすた水脈 (みき) のやうな
わたくしの心の中に、今も時折鳴り響きます。

それでも人気 (ひとけ) のないこの武蔵野に
同じ思ひの人々が群れ集った時
ただひとすぢの名もない青い川だけは
天日に希望のやうに光ってゐたのでありませう、
夢うつつ大和 (やまと) ぐらしに慰められて
やがて亡国の恨みも忘れたのでありませう。

ぼろぼろの千二百余年も前からの
この家系図の階段を降りてしまうと
わたしは何時もこの高麗村の
貧しい社の前に一人立ってゐるのです。

空しいが、根強い
あの高麗川の光りのやうなものが、わたくしには
……。

と、青年は口をつぐみ、
広げた家系図を巻きはめる。
古代のやうな沈々とした月明の夜ふけ
この部屋だけが灯りを燈して息吹いてゐて
山上には果々とした祖先の墓がねむってゐる。

埼玉県日高市には高麗（こま）神社というところがある。この高麗神社には若光という昔の高句麗の王族が奉られ、若光の子孫と言われる高麗（こま）家が代々この神社を守り続け、現代までその子孫が60代に及んでいる。

高句麗が新羅と唐によって滅びたのは、西暦668年である。その2年前に高句麗の若い王族若光が外交使節として来日し、本国が滅びるとそのまま日本に残り、716年には武蔵国（現在の東京・埼玉一帯）に関東各地に散在していた1、799人の高句麗人を集めて高麗郡を設置し、大陸と呼応しながら高句麗の再建を試みた。彼の死後、高麗郡の高句麗人たちは若光の功徳を偲んで靈廟を建て、その子孫が代々それを守ってきた。現在、高麗神社には多くの文化遺産が残っており、そこを訪れると古の高句麗人の進取的気象と日本における朝鮮渡来人たちの活躍像が偲ばれる。

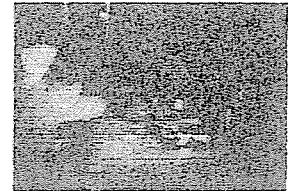
この詩は、日本の詩人である野田宇太郎が50年ぐらい前に高麗神社を尋ねて、若光の第59代子孫である高麗澄雄氏と夜を徹しながら高句麗、高麗神社の歴史を語った後に創作したものである。

この一篇の詩には高麗神社と高麗家の由来が見事に集約されている。詩には高麗家の現当主高麗澄雄氏が同家に古くから伝わる系図を広げながら高麗家の歴史を語る形式をとり、時空を超えて遠い朝鮮の三国時代と朝鮮奥地のぼうぼうたる原野に読者を立ち合わせる。そして、唐と新羅に挟み撃ちされ、ついに七百年の歴史の幕をおろされた高句麗の敗亡の悲運、その亡命民たちの苦難の姿がありありと再現されている。これら亡命民たちは当時はまだ人跡のなかった武蔵国の一角で、新しい希望を燃やしながら開拓の轍をおろした。

この詩には同時に、伝統というものの重みとその伝統を背負っていく人の孤独と強い意思とが歴然と映り出されている。ミレニアム（千年紀）と言われる時期に、千年の間に何が変わり、不変のものは何かとこの詩を通して考えてみるべきものである。

沖縄紀行

金炳哲



沖縄は中国のような日本である。五年前、友達と日本4島を旅した後、”（下次到沖縄去冲一把）何時かは沖縄へ行きましょう”と約束したことがある。それが今になって彼は帰国し、私だけが沖縄へ行くことになった。旅費が北京より半分以上高いのは別として沖縄へ行くチャンスが滅多に無いことである。

羽田空港を離れ、約2時間半後、飛行機は沖縄本島上空を飛んだ。沖縄の海は本当に綺麗！くっきりしたハワイアンブルーの珊瑚礁で囲まれた沖縄本島はまるで巨大な龍が海を泳いでいるように見える。飛行機はこの龍の尻尾の国頭村から侵入し、足の本部町を通り、頭的那覇市まで行くのである。この龍の周りに無数の島々が囲み、まるで龍の周囲を介護しながら泳ぐ魚群のようだ。ふと、これが琉球群島であることに気づき、やっとその名前の由来が想像できた。多分、昔の中国人はここを見て、綺麗な珊瑚礁を”龍宮”と思い、沖縄本島を巨大な”龍王”と考えたのだろう。そして、”龍宮群島”と呼んだのを琉球人は”琉球群島”と呼び変えたのであろう。日本語は中国の漢字をベースに文字を作り、また、呼び方は同じでも違う漢字を使うのが多いのである。

沖縄には電車が無いのでバスがメイン交通手段である。交通渋滞が良くあるので出かける場合は時間を十分に取るほうが良いのである。私は公務を終えて那覇市のメインストリートである国際通り近傍の那覇港船員会館で夕食を取った。私が着いたのが夜8時過ぎであるせいかレストランにはお客さんが少なかった。広いレストランの向こう側に6人グループの船員たちが酒を飲みながら夕食を取っていた。沖縄らしく閑散としていた。私は沖縄そば定食を注文し、人気が少ない外の窓を眺めながら自分の研究テーマに就いて考え込んだ。定食が出来上がり、東京のように平気で一人で食事を取ろうとしていたところ、向こう側の船員さんの沖山さんがおちょこに酒を注いでやってきた。

”一人で寂しく食事すること無いよ。お酒でもどうぞ”

と言いながら流離身の私を慰めた。研究発表の時は何時も大声で、正々堂々と主張しながらも、宿泊、レストラン探しには貧乏で何時も小さな声のインテリがなんとなく寂しく見えたのであろう。とにかく有りがたく思い

”お酒は飲めませんが、お言葉に甘えてご一緒させてください。”

と言いながら席を移動した。上の写真がその当時の睦まじい友達の宴会である。宴会の話中、私は昔の懐かしい思い出が目の前に何時の間にか迫ってくる感じがした。

10年前のことである。学生運動が日増しに激しく成っても社会人になった私は真面目に出勤し、政治には無関心だった。1989年6月4日、退勤後、2時間の自転車を漕い

で帰宅した私は驚きなニュースを聞いた。天安門広場の学生を軍隊が武装鎮圧したことである。大学生の親族が居る家庭は皆心配したことであろう。丁度、私の恋人が吉林大学大学院で勉強中である。その当時は電話も無いのでどうしようもないのである。現在の若者は何か有ったら或いは何にも無くてもプラスチックの棒に小さな穴を空けて振動する空気を吹き込んでお互いの息を感じるなのであるが、電話の無いそのころは本当に焦ったのである。沈陽駅まで行く最終列車は我が村を9:00時に停車するのである。私はその列車に乗り、沈陽駅へ出て、12:00時出発の列車に乗り換えて長春へ向かった。列車内は北京から撤退する学生で一杯であった。眠気はまったく感じられなかった。真っ赤な血をしたワイシャツ姿の学生、頭に白い布をした学生も居た。私は彼女がなお更心配になった。学生は皆が遣れば群がってやるから、この事件で負傷したのか死んだのか心配でならなかった。学生運動を反対することではなく、生死の際まりの時は彼女と一緒に居て一緒に乗り越えたかったのである。列車は朝5:30分頃に長春駅についた。外はまだ薄暗く、町には学生だけのようであった。駅前にバスが有ったのでみんなでバスに乗った。学生達はお金なしに列車に乗ったらしく、天安門の話をしていて、運転手さんは学生達が国を憂い、民衆を思う話に賛同し、

“あなた達がそんなに国を愛し、民衆を思うなら今日は無料にしますよ”

と快く言った。車内の憂鬱な雰囲気は一気に高揚し

“祖国万歳！人民万歳！打倒独裁！”

と言う口号がひっきりなしに響いた。私も愛国心に急かれて興奮したが、彼女への思いは火のたるまだった。

生命誠可貴 生命は確かに尊い

愛情価更高 愛情の価値はもっと高い

若為自由故 しかし、自由のためなら

両者皆可抛 両者を全部捨ててもよい

と言う詩が有って若いごろは革命闘志に燃えたのだが、実際の行動で、私は愛情を優先したような気がする。

バスは6:30分頃に吉林大学へ着いた。中国では女性宿舎へは立ち入り禁止なので私は300名も入れる共同講堂へ潜り込んで8:00時まで待った。吉林大学は北京から遠く離れたせいかもしれないが多くの学生が学問に没頭したのか学生運動が激しくなく、環境も沖繩のように平和で、静かであった。

目の前に早朝から見えるはずが無い私が突然見えたので彼女はびっくりして丸い目を大きくして口を開けた。

“どうしたの”

私は彼女が無事であることを確認し、自分が余計に“心配して来た”とはどうしても言えなかった。

“ちょっと、資料探しに来た。”

と嘘を吐いた。

彼女は授業があるので余計な話はせずさっさと図書館のカードを貸してくれた。私は図書館で一日を過ごした。夕飯の頃、彼女が図書館に来て

“ご免なさい。学生運動があるから学校では昼夜授業をします。欠席できません。”

と悲しそうに言った。私はお腹が空いたので吉林大学正門を出て、ちょっとした坂道を上って小さなレストランで食事をすることにした。

酒には弱いので酒なしの主食とつまみ料理を注文した。ひとりぼっちの時には外を見るのが好きで坂道を往復する車の景色を眺めた。

向こう側に30代前後の青年3人が酒を飲みながら何か話していた。その中に一人の青年が一人ぼっちで食事をしている私を見て、

”友達よ、一人食事しないで、ここに来て一緒に食事しましょう”

と声を掛けてきた。三国志の最初のページに”久合必分、分久必合”（長く一緒であれば必ず分かれ、また長く分かれば必ず一緒になる）という言葉が有る。一人旅でも列車中で必ず話ししながら寂しい思いはせずに済んでいた。私も平気で一緒に食事をすることにした。

”同じ部屋で食事したら、室友になり、同じ食卓で食事したら卓友になる。皆友達ですからあんまり寂しくしないほうが良いよ。人生苦短、何必苦惱。（人生は短いのだからあんまりくよくよしないほうが良い）。友よ、天安門事件で貴方も消沈したでしょう。”

と一人が尋ねた。私達は学生運動に着いて活発にしゃべりながら夕食を済ませた。

その当時は、外出時のこんな臨時の友達は日常茶飯のようだったので特に名前、連絡住所などは残さずにいた。日本に来て、人情薄い東京で9年間住み、寂しくなった私は沖縄で10年前と同じように見知らぬ人から友達扱いされたので本当に感無量である。沖縄人は人情味があり、中国人のようにやさしいのである。私はすごく気に入っている。

私達は夜10時過ぎまで酒を共にして家庭などいろいろ話し合った。そして、明るるに日に船員さんの船を見学することにした。沖縄弁は大阪弁よりもっと柔らかく、まるで歌を歌うように聞こえる。福建省に近いから福建語と発音が同じらしい。

ウサガミソーリ 召し上がってください。

時々食事を勧められる。船員さんは朝早く仕事があるので、また私も朝早く仕事があるので惜しい夕食を済ませた。

イチャピラ。ユクミソーレー。 行きましょう。おやすみなさい。

明るる日、私は5:00時に起きて泊港を一周ジョギングし、6:50分前は朝食を済ませ玉城さんが約束した地点へ向かった。

メンソーレ いらっしやいませ。

と玉城さんがにこにこしながら歓迎してくれた。船は大きかった。私は生れて始めて船長室に入り、船長の舵を握り、航海の様子を体験した。船長室は船のほぼ真中にあるので船の前下方は見えない。私はふとタイタニック号豪華客船が何故氷山にぶつかってしまった

たのか想像できた。タイタニック映画の主人公のようにそんなに美しい話ほできない私は玉城さんに感謝の気持ちを表そうと話し掛けたのが” ジュース飲みますか” であった。早朝にとうんでも無い話だったと思う次第である。

琉球と中国の交流は1372年から始まり、琉球国王が代わるたびに中国皇帝は使者を遣わし即位式を行わせた。首里城にはその冊封の様子が再現されている。首里城に入ると中国の故宮に入ったような錯覚がする。赤い建築、黄色い龍の柱、康熙皇帝像、中国語など至る所に中国の痕跡がある。また、那覇市の町中でも中国の風景が漂う。商店街には中国語の案内があり、店員さんは殆ど中国語が話せる。台湾と近いから台湾人と良く付き合うようである。

グシチャン（具志頭村）にはふきんどうの伝説がある。沖縄人が話すと歌のようである。

” 意地（いじ）ぬ出（ん）じらあ 手引（ていひ）き
手（てい）ぬ出（ん）じらあ 意地引（いじひ）き”

日本語で訳すと：

カットなったら手を引いて

手が出そうになると

心を落ち着けよ。

諺で言うとは短気は損気。短気をするな

だそうである。

昔、有る商人が九州の武士からお金を借りたが、結局事業失敗し、お金を返せなくなった。その武士はグシチャンに何度も来てお金の返済を迫ったが醵金も貰えなかった。有る日、武士は凄く怒って商人を殺そうと刀を引いた。商人は首が飛ぶ前の瞬間、上の歌のような話をして、自分の決心を述べた。武士はそれを聞いて商人殺しを諦めて九州の家に早めに戻った。夜中、突然自宅に入ったら、妻が他の男性と同棲しているのを見つけた武士は血が頭に上り、すぐ刀を上げて男性を殺そうとした。刀が降りる瞬間、武士はグシチャンの商人の話が頭に過ぎり、人殺しを止めて許すことにした。布団を上げた瞬間、武士はびっくりした。その男性は自分の母が男装をして妻を守っていたのである。

武士は再びグシチャンに戻り、商人に感謝の気持ちを表した。もし、商人の話が無くて短気をしたら自分の母を殺したに違いなかったからである。商人は後でそのお金を返そうとしたが武士は結局受け取らずグシチャンの岩のしたに隠したそうである。その伝説で今は観光客が増えて、まるで宝捜しのようである。

沖縄人は伝説のように精神面でも豊かで人間を良い方向に導いている。中国人は大陸風格で胸襟が広いが沖縄人は大海風格で胸襟が広いのである。

私は心が中国人で体は日本に住んでいるが沖縄人は体が日本に住んでいるが心は中国人である。日本島の人々は沖縄へ一回は行って体験したほうが良いと考えているのである。

(終わり)

インターネット通販を成功させる法則(1)

ものごとは、目標を設定すると達成しやすいというのは事実である。これからインターネットを使ってウェブ・ショップを開業させようと考えている人も具体的な目標を掲げられることをおすすめする。

(1) これからますますインターネットが普及して、多くの人がインターネットなくしては生活が出来ないような時代がやってくる。例えば、電話がわれわれの日常生活にとって欠かせないものとなって来ているように。また、皆さんご存知のように携帯電話の普及のスピードは恐ろしいものがある。

(2) ホームページを作成して、アップロードするだけなら、元手もほとんどかからない。プロバイダー料金も年々安くなってきているし、電話料金にしても各電話会社の熾烈な顧客獲得競争のお陰で数年前と比べても信じられないくらいに安くなって来ているし、来年には24時間回線を繋ぎっ放しで、月に数千円のレベルまで安くなる。コンピュータの本体にしても、今年のクリスマス商戦の目玉である10万円を切る価格のコンピュータはよく売れている。また、今度NTTが始めたサービスでは月額3980円のリース料で、電話代、プロバイダー費用、コンピュータの利用料を全て含んでいる。だから、やる気とそれ相当の時間を掛ける覚悟があれば、ホームページを開業すること自体は誰でも出来る時期になってきているということである。

(3) そして、最後のインターネットは儲かりそうだというイメージであるが、これがなかなか曲者である。なぜなら、インターネットはあくまでも通信の新しいひとつの手段に過ぎないからである。電話はわれわれの生活になくてはならないものであるが、だからといって電話だから大儲けが出来るといえる話はそんなに聞いたことがない。確かに、一時流行ったダイヤルQ2やテレクラのような商売は電話というツールをうまく使った商売には違いないが、一般の人がやるにはちょっとお金と勇気とリスクがある。携帯電話にしてもコミュニケーションの手段として便利になったが、だからと言って特別携帯電話だから大儲けが出来たという話は聞いたことはない。電話会社や携帯電話の販売代理店の光通信のように携帯電話の販売を手がけて大きくなった会社はあるが、現在でも個人レベルで出来るのはやはり携帯電話の販売代理店くらいのものであろうが、それでさえ頭打ち状態のようである。だから、インターネットは、あくまでも新しいひとつのコミュニケーションのツールであるということを肝に銘じておいて欲しい。インターネットに対して、要らぬ幻想を抱いてもお金儲けは出来ない。つまり、基本は普通一般にある商売と何ら変わらないということである。

インターネット通販も商売であるから、心構えとして、自分なりの目標を設定することをおすすめする。具体的な売上の目標を設定するのがわかりやすい。趣味レベルなのか、副業として月にお小遣い程度の売上があればいいのか、あるいは本業として、全エネルギーをホームページに注力するのか。それは人それぞれだと思うが、目標の設定によって結果としての売上の額も大きく違ってくる。スタート時1名の人員で月50万円の売上を達成するための目標を掲げて、このコーナーを勧めていきたいと思う。月50万円の売上は、あくまでスタート時である。しかし、これが将来大きく花開くためのベースになるのである。

(金 炳哲提供)

手を取り合っであごまで届く豆満江を渡ってきた

イム・ Chol (10)、イム・ソヨン (8) 兄妹の眼に映った北朝鮮子供たちの生と死

「兄ちゃん、あたしは死んでもお兄ちゃんは死なないで」 (連載3)

故郷を離れて祖母の家に

ある日にはお米や小麦粉ももらってきました。本当に人間の頭は使えば使うほどよくなると言われていますが、収穫はわるくありませんでした。1日一握りずつ食べると、毎日食べて暮らすのに十分で、少し余裕さえありました。たまには友達のお母さんがぼくのことを気の毒がって少し分けてくれたりもしました。

しかし、この稼ぎも長く続きませんでした。ぼくは再び市場や山に食べ物を求めに行かなければなりません。妹も午前中は勉強し、午後はぼくといっしょに市場に行って物乞いをしたり、山に行くと草を摘んできたりしました。ときたま石炭を運びに炭坑に行くと警備員に捕まり、殴られることもよくありました。パパもママもいないから許してくれと頼んでも彼らは無慈悲でした。

捕まってひどく殴られた日は腰や足が言うことをきかず、仕方なく手ぶらでびっこを引きながら家に戻るのです。その時は妹のソヨンが本を拾ってきたり、隣近所から石炭を貸してもらったりしました。そして、昨年11月頃、炭坑ではぼくたち兄妹を高原郡にある「孤児院」に送ることに決めました。

ところが、ぼくは9歳で妹は7歳なので幼すぎるといって孤児院で受け入れてくれませんでした。住居不足で困っていた炭坑では住宅を探している家の主人にぼくたちを咸鏡北道セピョル郡にある祖母の家に連れて行き、ぼくの家をもらう決定をしました。

離れる時、ぼくたち兄妹はママの墓地を訪ね、市場でもらってきたそばを一皿置いてお辞儀をしました。ぼくは「ママ、さようなら。必ずまた来るから待ってね。ソヨンはぼくがちゃんと面倒見てあげますから」と言いながら思いきり泣きました。ソヨンもママの墓の前にうつ伏せになって泣きながら言いました。

「ママ。あたしもママくらい大きくなったらママのそばに来て死ぬわ。ママ待ってね」

そしてソヨンといっしょにいていねいに墓に生えた草をきれいに整理し、墓の土を固めて墓地の手入れをしてからぼくたち兄妹は北方の見慣れぬ地に向かいました。行く時列車が時間通りに運行せず、苦労が多かったのです。ぼくの家鉄の釜を取り外し、トウモロコシのパント交換して途中で食べる食事を用意しましたが、弁当はいっしょに行く見知らぬおじさんが持っていました。

列車で5日もかかるという話を聞き、あのおじさんは一食にパン一つだけ分けてぼくと

ソヨンにくれ、自分は一食にパン三つも食べました。パンはぼくの家の釜と交換したもののなのに。本当に腹が立ちました。

列車に乗って三日目の日、ソヨンがお腹が空くというのでぼくは列車の中で歌を歌って乗客たちを喜ばせた後、食べ物を乞いました。

ジャガイモで作った餅数個と草餅数個、お米のご飯を何匙かもらい、本当にお腹いっぱい食べました。咸鏡北道セービョル郡の祖母の家に行くにあそこにも食べ物がありませんでした。祖母の家族も毎日草やトウモロコシの芯を粉にしたものにトウモロコシの粉のお粥を食べていましたが、それさえも一日二食しか食べられませんでした。

ぼくは祖母を手伝って山に行って薪を取ってきたり、草を摘んだりする仕事も一緒にしました。ともかく祖母に頼りにすると、ぼくたち兄妹は「コッゼビ」や孤児にはならなくて済みました。

コッゼビがもらった食べ物を奪う軍人たち

咸鏡北道セービョル郡は咸鏡南道より食糧事情がもっと厳しいようでした。なぜなら市場や街角には「コッゼビ」たちがもっとたくさんいたからです。

祖母の家で食べるものではお腹の隅っこも満たせないような気がして、ぼくたちも自ずと市場に出入りするようになりました。市場をさまよいながら暮らすコッゼビが50人以上あり、ぼくたちのように物乞いをする児童は300人を超えているようでした。中には大人たちも少なくなかったのですがあそこでは「大きいコッゼビ」と呼ばれていました。彼らはてんから市場の周辺に稲わらを積んでそこで寝ていました。一日平均500人以上がごった返す市場にはたくさんの食べ物を売っていました。餅、ソンピョン（あんこ入りの饅頭）、トウモロコシの根っこか芯を粉にトウモロコシの粉を混ぜ合わせた食べ物は安くてぼくたちが買って食べたり、もらって食べたりするには手頃の食品でした。

ところで、人をぞっとさせるようなうわさが出回りました。市場でさまよう「コッゼビ」3人を殺して（その肉）をトウモロコシのそばの上にかける豚肉に混ぜておいしくし、高値で売ったとのことでした。ぼくと妹はこわくて、それ以来トウモロコシの上にかける肉はみな人の肉だと思い込みました。

市場で最強者は軍隊と若者でした。彼らはむやみやたらに飛びかかっては拳骨を振り回して奪い合い合戦をしました。ある日、ぼくとソヨンが物乞いしてあるおばさんから草餅を2個もらいましたが、軍隊がやってきてびんたを喰らわせながら奪うので取られるしかありませんでした。

妹がお腹を空かしているから1個だけは返してもらいたいと懇願すると、軍隊は妹の腹部を蹴り倒しながら「軍人はもっとお腹が空いている」と2個とも口にほうり込み、瞬く間に食べてしまいました。

セービョル郡では学校に通うのを断念したほうがよかったと思います。あそこの子供た

ちはほとんど学校に行っていない。ぼくと同じく9歳なった子供たちはほとんど文字が読めません。でもあそこの子たちはみんな商売がうまいでした。

家でパパ、ママがこしらえる草餅や草のごった煮は、ほとんど子供たちが売っていました。そのお金で再びトウモロコシの粉を買って食事の足しにしたり、売ったりして生活を維持していました。ですから子供たちも勉強する考えはないし、大人も自分の子を勉強させる考えはありませんでした。

市場で「コッゼビ」たちに交わって歩きまわると、自ずと彼らと親しくなりました。「コッゼビ」といってまるっきり悪い子供ではありません。誰かが食べ物がなく死にそうになったらみんなで物乞いをしたり、盗んだりして得た物を食べさせてやりました。また盗んだ物は一人占めにせず、みんなで分けて食べました。彼らの体には虱がいっぱい湧き、暇さえあれば服を脱いでしらみつぶしに取りかからなければなりません。ぼくたちは祖母の家で寝、服をよく取り替えているのでこのような虱潰しは免れました。

「中国に行って思いっきり食べてみよう」

市場では「コッゼビ」たちの間で、豆満江をわたって中国の地に行けばいっぱい食べ物があると囁いていました。あそこに行けばただで食べさせてくれるとのこと。その囁きの声はいつまでもぼくの耳元でこだまし、離れませんでした。

祖母もいつ亡くなるか分からないし、このままここで暮らしたのではぼくもソヨンも死んでしまいそうな予感がしました。とにもかくも、どうせ両親のいないぼくたちですから同じ放浪生活をするのならいっそのこと中国に渡って腹一杯食べてみたかったのです。そこで今年4月末、祖母に隠して妹を連れて列車に乗り込み、豆満江が見えるというところに向かいました。進んでは泊まり、泊まっては進む蒸気汽車に乗って3時間くらい走ると本当に豆満江が見えました。

川の向こうは見るだけでもすばらしい中国の地がはっきり見えました。「サンボンヨク」と書かれた駅で降りると、豆満江は駅のすぐそばでした。午前11時頃でしたが、ぼくは妹のソヨンと一緒に豆満江の土手に近づきました。土手には軍人たちが銃を構えて行ったり来たりしていました。

ぼくたちは草を摘むふりをして土手の近くで草の新芽を摘んで食べたりしながら、時間を過ごしました。ソヨンには「いいところに行くから捕まって殴られても我慢しないとだめだよ」と何回も念を押しました。

お昼の時間になると、土手の軍人たちはお昼を食べに一人二人消えていきました。ぼくが土手に上ってみると軍人たちの姿は見えませんでした。

ぼくはソヨンと一緒に豆満江に足を踏み入れました。それほど深くないと思ったのに、ぼくたちが背の低いためか、水かさは胸のところまで届きました。ソヨンには首のところまで水があふれました。ぼくとソヨンはしっかりと手を取り合って川を渡り始めました。

冬が過ぎたばかりのせい、水はかなり冷たかったのです。所々、ソヨンの鼻の辺りまで水があふれたのでソヨンはばたばたしました。ひよっとすると溺れ死にするとおぼくたちはもっと固く手を取って進みました。そして互いに慰め合いました。

「ソヨン、力を出して。しっかりしないと溺れ死ぬぞ」

「お兄ちゃん、あたし怖いの」

「大丈夫、死にはしないさ。お兄ちゃんがいるから大丈夫だよ」

「お兄ちゃん、あたし死んでもお兄ちゃんは死なないで」

ぼくは本当にソヨンを死なせるような気がして、涙が出ました。

死んではいけない

「ソヨン、お前死ぬのが本当にこわい？」

「違うの、お兄ちゃん。あたしこわくない。あたし、死んだらママのそばに行っていっしょに寝るもん。お兄ちゃん、そうしてくれる？」

ぼくは腹が立ちました。

「このアマ、お前が死んだらお兄ちゃんもいっしょに死ぬんだぞ」

ソヨンは泣きながら言いました。

「お兄ちゃん死んじゃだめ。ママとあたし、パパを見てくれる人がいなくちゃだめでしょ」

こう話し合っている間にぼくたちはいつの間にか豆満江を渡り終わりました。ぼくは嬉しくてソヨンに言いました。

「見ろ、死なないと言ったろう」

ソヨンはあまりの寒さにしきりにふるふる震えながら答えました。

「お兄ちゃん、あたし死ぬかと思ったわ」

「早く行って食べる物を頂戴しよう」

「うん、わかった」

ぼくたちは水浸しになった服の水を絞りながら、あまりの寒さに中国村を目掛けてひた走りに走りました。

村に着くと中国の人たちが不思議そうにぼくたちをしげしげと見ながら通り過ぎました。ところが、一人のお婆さんと男がぼくたちを見て立ち止まるなり、「行こう、早く」と有無を言わずぼくたちの手を引っ張ってある家に連れていきました。

玄関に入ってからドアを開めた大人たちはぼくたちに北朝鮮から来たのかと聞きました。ぼくたちがもたもたしていると、大人たちは「可哀相に！」と舌打ちをしながら、部屋に連れて入りました。

部屋に入ってからぼくたちに服を着替えさせ、大人たちは「かぜ薬」といってぼくたちに薬を飲ませてくれました。それから「お腹空いたらろう？」と聞きました。

ぼくたちが「そうです」と答えると、台所ですばらしいパンやお菓子、お米のご飯をいっぱい運んできました。ぼくとソヨンは思わず「わあ！」と歓声をあげ、パンからむしゃぶりに食べ始めました。あまりに甘くて香ばしいパンなのでソヨンは指にくっ付いたパンの切れ端までなめて食べました。大人たちはぼくたちの食べる姿を見て目が潤い、黙って見ていただけでしたが、お婆さんが言いました。

「おまえたち、顔がきれいね。ここにはこうたくさんあるわよ。思いきり食べて」
本当に有り難い方たちでした。

「ぼくたち兄妹を助けてください」

中国に渡ってきたぼくたちは本当に天の国、星の国に来たような気がします。どこに行っても食べ物があふれていました。それも北朝鮮の草餅や草のごった煮のたぐいではなく、トウモロコシのそばよりもっとおいしい、様々な食べ物です。もちろん、子供たちは市場や街角で「コッゼビ」生活はせず、物乞いもしませんでした。中国人の中には、ぼくたちが北朝鮮で草と粉を混ぜた食べ物を食べて暮らすというと、「それなら健康にいいじゃないか」と言う人がいます。本当に笑いたくなるような話です。

ここには孤児もいないし、みんな学校に通います。毎日おやつも買って食べます。北朝鮮の汽車は進んでは止まったりして、ゆっくり走りますが、ここの汽車は止まりもしないどんどん走ります。北朝鮮にはバスが一台もありませんが、ここには外に出たらバスがあるので、交通便が本当に便利です。ここの子供たちはあまりにも顔が白く、ふっくらとしているので、やせ衰えた北朝鮮の子供たちを相撲を取れば、みんな勝ちそうな気がします。

ぼくたちはこれまで大勢の中国人の世話になりながら暮らしてきました。中国人といっても同じ朝鮮民族ですから。中国の人たちはぼくたち兄妹を自分の家で1週間ずつ寝止まらせ、美味しいものを食べさせてくれました。ぼくたちもいまはお腹がいっぱいになり、いろんな物を食べてみたので特に食べたいと思うものはありません。

ぼくたちがご飯をおいしく食べないと、こちらの人々はめちやくちや叱りとばします。たくさん食べないと、大きくなると言っで。北朝鮮では子供たちがたくさん食べると「食虫みたいな餓鬼」とののしられますが、ここでは正反対です。食べ物のことで子供を殴るようなことはさらさらありません。ぼくたちは食べ物がこんなに豊かな中国にいと、ママ、パパと祖母のことを毎日思い出します。

まともに食べられなかったので亡くなったお母さんがここに来て3日だけでも食べたい物を食べて死ねば、ぼくたちはこれほど胸が痛まないでしょう。

ぼくたちのお母さんは結局死ぬまで一度も腹一杯食べられないまま目を閉じましたが、人間が生きるこの世は実に不公平だと思います。ママは醜くもなく、心も優しいのにどうして人並みに食べることもできず、死ななければならぬのか。また、パパはいつも笑顔でしたが、本当に人々が言っているように、飢餓で倒れたのでしょうか。

ぼくは、食べ物がなくて苦勞している氣の毒なお母さんを訪ねてきて「このあま！」とののしっていた北朝鮮保衛部や安全部の人を呪います。大きくなたらぼくも必ず舞い戻って仕返してやります。

ぼくたちは中国に来て週に1回あの家この家を回りながら、いっぱい食べたり、遊んだりしているのですが、それだけでは物足りません。お腹がいっぱになると、今度はぜひとも勉強したくなったからです。そこで会う人ごとに勉強させてくれとねだるのですが、ぼくたちは父母のいない子供であり、勉強するのに金がたくさんかかるから勉強はできないと説得します。

ぼくとソヨンは朝になるとカバンを背負って学校に行く子供たちがうらやましくて毎日彼らが見えなくなるまで彼らの後ろ姿を眺めています。

ぼくはソヨンを川辺に連れて行って朝鮮語と数学の基礎知識をたくさん教えました。そこで、ソヨンはもう朝鮮語が全部読め、簡単な数学の計算もできます。本当に頭がいいです。ここに来てから韓国の歌を一度聞くと、ついて歌うのですが、みんなうまいとほめてくれます。

ぼくたちは死んだお母さんや行方のわからないお父さんの言いつけ通り、一生懸命勉強して大物になりたいと思いますが、その条件が整わないので悔しいばかりです。食べてくれさえすれば、外で寝ていながらも懸命に勉強します。どうかぼくたちに勉強する機会を与えてくだされば、大きくなって必ず恩返しします。

「ぼくたち兄妹を助けてください」

1999年7月。中国の地でイム・チョル、イム・ソヨン。

『月間朝鮮』から李 東哲（延辺）記

[暮らしに役立つ生活情報]

都心の家賃助成制度

東京は家賃が高くて困ると思っていられる方はこんな事にチャレンジしてみませんか。家賃対策には前期『天池人文』に金光林さんが提案した都営住宅など安い住宅への申込をするのが大変良い方法です。もし都営住宅は家賃が安いのだが子供の転学等の問題で引っ越しをしたくない方には次のような方法もあります。東京都の幾つかの区では区内の人口の過疎化対策として家賃助成制度があります。区によって助成金の有無、募集時期、募集数及び助成額が異なっています。港区、新宿区、目黒区には必ずありますが、都心部を少し離れた練馬区や中野区等にはないらしいです。港区ではずっと最高助成額を5万/月までしましたが（資格がある限り6年間）、去年より最高、最低額なしで全て3万/月になりました。色々な応募資格規制が有りますので、詳しいことは区役所に行って問い合わせして下さい。お金は情報、資格とチャレンジです。私自身は港区で1995～1999年に家賃助成を受けています。

（韓 春錫）

[暮らしに役立つ生活情報]



中国語・韓国語バージョンインストール方法



Microsoft Global IMEをインストールすれば中国語と韓国語が見れるし、文字も書けます。Microsoft Global IMEのダウンロード先：

http://www.microsoft.com/windows/ie_intl/ja/ime.htm

インストール方法：高性能の Microsoft Global IME 5.01 により、国際的なコミュニケーションがさらに簡単になります。あらゆる言語版の Windows 98 または Windows 95、Windows NT 4.0 で、Microsoft Word 2000 ドキュメントや Web の入力フォーム、電子メールメッセージに中国語または日本語、韓国語のテキストを入力できます。使用方法は簡単です。Word 2000 または 4.0 以降の Internet Explorer、4.0 以降の Outlook Express、Outlook 98 を起動して（どの言語版でも構いません）、タスクバーで Global IME を選べば、選んだ言語のテキストを入力できます。

中国語バージョン（簡体字）をインストールする時は、Microsoft Global IME 5.01 for Chinese(Simplified)-with Language Pack バージョンを選んでください。

中国語バージョン（繁体字）をインストールする時は、Microsoft Global IME 5.01 for Chinese(Traditional)-with Language Pack を選んで次を押してください。

次の画面が出たら、また次へを押してください。そうするとファイルダウンロードウィンドウが出ますので、“このプログラムを上記の場所から実行する”（推薦）、または“このプログラムをディスクに保存する”を選択し、OK ボタンを押します。次からはメッセージにしたがってインストールし、再起動をさせます。次は、使う時の問題ですけど、最初に使い方は分からないと中国語がかけなくなりますので、再起動したら、まず、スタートボタン → プログラム → Microsoft Global IME → Chinese(Simplified)を選び、中国語入力パッケージを実行させる。その次は、ワードを起動させ（またはOutlook Express）、ワード（またはOutlook Express）がアックディブな状態で、WINDOWS 画面の一番右下のタスクバーの中で、筆に赤いボールみたいのがついてあるアイコンを押せば、使える入力システムのメニューが出ますので、その中でChineseを選べば、ワード（またはOutlook Express）等で中国語を入力できるようになります。

同じ方法で、韓国語バージョンをインストールする時は、Microsoft Global IME 5.01 for Korea-with Language Pack バージョンを選らび、同じようにインストールすれば韓国語も書けるようになります。

もっと具体的な手順が“ダウンロード手順”にかかれていますので、御参考にしなさい。

もし、うまく行かなかった場合、ここにメールをください。nxgz@apple.ee.uec.ac.jp

21世紀のアジアを目指したスペシャル語学講座

「中韓2カ国語を同時に学ぶ」講座

日本語教師や多言語習得に興味のある方が中国語と韓国語を同時に勉強できるユニークな語学講座です。日本語と同じ漢字圏に属し、同じ漢字語をふんだんに用いながらも、音韻、語彙、文法、用法などに微妙な違いのある日中韓3カ国語。「近くて遠い言語」なのか、「遠くて近い言語」なのか、接して見れば一目瞭然・一目了然・老格丰穰です。

本講座を通して、音韻構造をはじめ、発音、文法、表現の異同などを正確にキャッチできるだけでなく、2カ国語の基礎的な会話もできるようになります。また、講座を通して3カ国の文化の違いも学べます。

講師陣は中国の大学で日本語を教え、日本では大学や語学学院で中国語、韓国語を教えた経験のある、3カ国語を自由に操るベテラン講師です。

学期区分：①4月期 約4ヵ月 ②8月期 約4ヵ月 ③1月期 約3ヵ月

お盆休み（約10日間）、年始年末休み（約2週間）、春休み（約1週間）

授業回数：週一回（祝、祭日、特定休み以外は年中無休）＊平均月4回以上

授業時間：二人までは90分、3人以上は2時間（休憩あり）

受講料：4月期48,000円 8月期48,000円 1月期36,000円

テキスト：手作り教材（実費）

講師プロフィール

李東哲 中国吉林大学日本語学科卒業。1994年3月横浜国立大学教育研究科修士課程修了、国立国語研究所外国人研究員を経て1996年4月立正大学大学院文学研究科博士課程に入学。1998年10月博士課程中退。1982年から1989年まで中国延辺大学外国語学部日本語学科専任講師。同日本語学科主任、学部副学部長歴任。来日後、1990年から1995年までフェリス女学院大学講師（朝鮮語）、1994年から1998年まで中国残留孤児支援協会・アジア語学センター講師（中国語）。その間、大東文化大学などで社会人向け中国語講座担当。現在、日中韓語学研究所、中国延辺大学日本駐在総合事務所代表。日本語教育学会、国語学会、朝鮮語学会会員。

著書・論文：『最新日朝辞典』（共編）。「日語単字複合詞的構成、意義及其与中文漢字的対応」（中国語）、「日本語の敬語と朝鮮語の尊待語」（日本語）、「1987年度中国高等学校日本語統一試験について」（朝鮮語）など、日中韓語学に関する論文20編余。

〒105-0003 東京都港区西新橋2-13-16 多田ビル4F-A

電話：03-3592-9005 FAX：03-3592-9064 E-mail:dongzhe@fishing.interq.or.jp

天池俱樂部通信

天池俱樂部第57回定例会開催

以前の定例会は、毎月最後の日曜日の夜に集まることだったのですが、皆さんから”月曜日の学校、会社などの件で十分に遊べない”との苦情があり、せっかく集まったのに時間の関係で旧交を温める間もなく解散となりました。これからはこのような事情を踏まえて定例会を毎月最後の土曜日の夜に変更致しました。

今回は時間的に余裕があったお陰で計21名のメンバーが集まり、金炳哲氏のコンピュータ0歳講座をメインに活動を行いました。ノートパソコンにCD-ROMを携帯しなかったので折角金炳哲氏が個人ソフト2セットを持ってきたのですが即時にインストールの講義はできませんでした。また、多くのファイル操作の裏技テクニックを時間的に不十分でしたので実践できませんでした。

休憩をはさみ、8:30から英会話コーナー、韓国語コーナー、女性倶楽部の3班に分けて勉強を進めました。英会話コーナーでは金炳哲氏を始め初心者たちが黒板を利用して熱心に勉強しました。

最後、皆さんはカラオケBOXで、歌の競演を行い、楽しい一日を過ごしました。今回は洪筍(女)さんが始めて天池倶楽部に見えました。宜しく願いいたします。

今期(1999年10月~2000年9月)の天池倶楽部会費を納めた方は下記の通りです。

韓学峰、黄正浩、姜春姫、金信敬、金炳哲、金万寿、高賢日、李森、林日華、朴滯叢、徐光哲、徐世煥、尹昌洙、趙龍淳(敬称略)。

会員にはいろいろな特典がございます。在日朝鮮族の皆さんのご協力をお願いします。

天池倶楽部理事会

天池人文

천지인문

CHENJI CULTURE

在日中国コリアンが創る文化生活誌

일본에 사는 중국조선족의 문화생활지

在日中国朝鮮族弁的多國語言雜誌

歡迎訂閱天池人文
歡迎購讀
주문을 환영합니다

郵便振込口座番号:10070-76880281

1部300円 年間購読料3,000円 電子版:購読料無料

申込みは天池文化社まで、TEL・FAX・E-MAILどうぞ

TEL:03-3864-9518 FAX:03-3864-9519

E-MAIL:tojili@mail3.alpha-net.ne.jp

毎月20日発行

天池人文

【天池人文】編集部は、在日朝鮮族事業家 朴永憲 社長が経営する国際民宿を、来日中国朝鮮族の皆様
に積極的に利用することをお勧めします。いきなり中国から知り合いが訪
ねてきたとか、初めて来日 **国際民宿 職業案内所** する人のため、宿泊探しに困る
方々は、是非とも気軽に国際民宿 をご利用ください。一泊1,000円の安
料金で、親切なサービスが魅力です。国際民宿は来日中国朝鮮族が多く利用することで、別名『朝鮮族会館』
とも呼ばれています。

- ★ 海外で苦勞されている朝鮮族のための特別サービス
1,000円/泊 自炊可能
- ★ 保証人・保証金不要、3万円/月で入居可能
- ★ 民泊・下宿を探している方、どんな要望にも応える
安い部屋・高級部屋あり、団体客歓迎
- ★ 男女の各種職業紹介 (どんな職業でも紹介あり)
- ★ 交通: JR山手線「鶯谷駅」徒歩2分

*有限会社潤東は中古車輸出、農産物輸入を行っています。事業パートナーを広く募集しますので、ご興味の方は下記の連絡先にご連絡ください。

TEL 03-3872-9960、HP 090-3520-1232、FAX 03-3876-5388

中国・ベトナムビザ業務代行

[中国ビザ]

- ★一次ビザ(シングル): 手数料4,500円/所要日数6日
(日本国籍以外の第三国の人1,000円加算)
- ★特急取得: 手数料7,500円/所要日数3日
- ★多次ビザ(マルチ): 13,000円/所要日数同上

[ベトナムビザ]

- ★一次ビザ(シングル): 手数料10,000円/所要日数8日

東方実業(株) TEL: 03-3265-2270 FAX: 03-3265-2274

E-MAIL: visa@thj.co.jp

- ★パソコンの組立てサービス
- ★完成品を購入するより部品を買って組立てる方が断然安い
- ★パーツは好みによって選べる
- ★HP制作・画像処理・パソコントラブル処理
- ★高い技術力・信頼の奉仕・安い料金
- ★引越しの手伝い
- ★レンタカー: 6時間5000円
+1500円保険+運転手食事代2000円

天池文化社事業部

TEL/FAX: 03-5670-5759
HP: 090-8342-7105

- ★北朝鮮で発行された書籍
- ★中国で発行された朝鮮語書籍
- ★中国で発行された朝鮮関係・中文書籍
- ★韓国で発行された今は、稀少本の書籍まで
- ★その他、朝鮮関係書籍多数あり
- ★北朝鮮 VIDEO・CD・ポスター・朝鮮旅行を取り扱う
- ★最新の朝鮮情報、超レアな朝鮮出版物が集まる

朝鮮専門書店 レインボー通商

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-12 石井ビル2F
Tel/Fax 03-3239-8887 E-mail: mujigae@kt.rim.or.jp
HP: http://www.kt.rim.or.jp/~mujigae

月刊誌【天池人文】広告募集中

連絡先: Tel:03-3864-9518

Fax:03-3864-9519